

a学校教育目標	夢をいただき、自己実現に向けて学び続ける児童の育成	a経営理念 ミッション・ビジョン	[ミッション] (自校の使命) 地域とつながり、地域に貢献する人材の育成 [ビジョン] (自校の将来像) 家庭・地域と連携し、特色のある教育活動を行う学校
---------	---------------------------	---------------------	--

評価計画				自己評価								学校関係者評価			改善計画				
b中期(3年間)経営目標	c短期(今年度)経営目標	d目標達成のための方策 (こんな取り組みをして達成します)	担当	e評価項目・指標 (評価を見とる目安)	f目標値	評価基準				g達成値	h達成度	i評価	結果と課題の説明	k評価			lコメント	m改善案	
						4点	3点	2点	1点					7月	1月	イ			ロ
確かな学力の育成	(1) 作文教育を充実させる。	観点別評価表を活用し文章表現力を育成 言語技術の習得と活用【小中連携】	研修	観点別評価表の項目の達成率	70%	70%以上	60%	50%	50%未満	69%	75%	107%	4	1学期に続き当該点を正しく打つことが課題である。視写のスキル学習で読点の打ち方学習を継続している。	3	1	国語については指導の成果が認められる。考える力を養うための一層の工夫が求められる。	句読点の打ち方も含めて、表記の基本を確実に身に付けさせる指導を継続的に行う。	
				作文朗読集会での発言のうち言語技術を生かした発言の割合 作文朗読集会の発表内容	80%	80%以上	70%	60%	60%未満	58%	60%	75%	2						低学年の発言の伸びが大きい。中・高学年には上述のねじれや理由の表し方などの指導を繰り返した。
	(2) 基礎学力を充実させる。	ドリルタイムの充実(言語事項、漢字、計算)	教務	学期末の言語事項テストの得点85点以上の児童の割合	80%	80%以上	70%	60%	60%未満	52%	79%	99%	3	各学年が言語事項の学習について丁寧に取り組んだ成果が出てきている。	3		引き続き、言葉の決まりの学習には重点を置いて指導し、嫌われないように反復練習を繰り返す。		
				学期末の漢字テストの得点75点以上の児童の割合	80%	80%以上	70%	60%	60%未満	62%	77%	96%	3	効果的な漢字学習の方法やドリルタイムでの繰り返し練習の取り組みの成果がでてきている。	3		引き続き、間違しやすい漢字を集中的に学習したり、前に習った漢字を忘れないように繰り返し学習したりさせ		
				学期末の表現・処理の項目テストの得点85点以上の児童の割合	80%	80%以上	70%	60%	60%未満	66%	67%	84%	2	あまり向上が見られなかった。引き続き授業やドリルタイムでの定着を図る。	3		学年の総まとめとして、様々な種類の計算を繰り返し行い、総合的な計算力の向上を図る。		
豊かな心の育成	全教育活動の中で豊かな心を育てる。	気持のよいあいさつの奨励【小中連携】	生徒	毎月5日間行う「ふり回りカード」ですべての日に がついた児童の割合	100%	100%	80%	70%	60%未満	86%	88%	88%	3	学校ではデータ通りよく挨拶をしているものの、地域に帰った時に声が出にくいという指摘がある。	3		全校帰りの会や集会活動を利用して、地域に帰ると最高レベルの挨拶をしていくように指導を続ける。		
				児童の心に響く道徳授業(地域の教材開発)	道徳	道徳授業の満足度「道徳の時間はためになる」と考える児童の割合(町の道徳アンケートで評価)	90%	90%以上	85%	80%	80%未満	91%	91%	101%	4	授業に積極的に参加することができる。しかし生活に生かされていない場面もあり、日常生活の中で繰り返し指導する必要がある。	3		学習したことを掲示して残したり、学級や学校の取り組みとして体験させたりすることによって実践力をつける。
				読書を通して語彙力を高め、豊かな感性を育成(継続的な読書指導)	研修	12月末までに各学年の推薦図書目標冊数を読んだ児童の割合(低35冊、中25冊、高20冊) 7月末目標4割	100%	100%	90%	80%	80%未満	72%	67%	67%	1	推薦図書にはいろいろなジャンルの本があり、知識以外には興味をささない児童もいた。高学年でもアイスホッケー、図鑑などにどまり推薦図書をあまり読まない児童もいた。	1	2	読んだ冊数やページ数以外にも読書時間で評価する方法もある。読書への興味付けをさらに工夫したい。
健やかな体の育成	食育の充実と体力の向上を図る。	(1) 基本的な生活習慣の定着を図る。	3点固定【小中連携】(起きている時刻、勉強をする時間、寝る時刻)の取り組みを徹底	生徒	毎月5日間行う「ふり回りカード」で起きている時刻に がついている割合が90%以上の児童の割合	100%	100%	90%	80%	80%未満	63%	71%	71%	1	1月の評価では中間評価よりも更に改善が見られたが、評価基準の設定が高すぎたようにも思う。	2	1	改善されたところ、「改善が進まなかったところ」のデータを示して全体指導を行うとともに、特に課題を抱える児童に対して個別指導を行う。また、今後小中連携の取り組みと並行して、児童と保護者両方に啓発を続けていく。	
					毎月5日間行う「ふり回りカード」でテレビを消して勉強する時間がついている割合が90%以上の児童の割合	100%	100%	95%	90%	90%未満	78%	86%	86%	1	着実に数値がアップしており、改善が見られた。評価基準の設定が高すぎたようにも思う。	2	1		
					毎月5日間行う「ふり回りカード」で寝る時刻に がついている割合が90%以上の児童の割合	100%	90%以上	80%	70%	70%未満	66%	66%	66%	1	改善が見られなかった。3点固定に関して、保護者の意識を変えていくことの難しさを痛感した。	2	1		
		(2) 食育の充実を図る。	バランスの良い食事、朝の排便の習慣化を図る。	生徒	毎月19日に行う「朝食・排便調べ」でバランスのよい朝食を摂取した児童の割合 アンケート:毎月19日実施・達成ポイント	80%	80%以上	70%	60%	60%未満	80%	82%	103%	4	給食指導を充実させ、また家庭の協力もあり、十分な進捗であった。一方、改善の見られぬ家庭が固定化していることも事実であり、指導を継続している。	3		給食指導等これまでの指導を継続して行うとともに親子で作る朝食等の取り組みを一層充実させる。	
					毎月19日に行う「朝食・排便調べ」で朝排便があった児童の割合 アンケート:毎月19日実施・達成ポイント	80%	80%以上	70%	60%	60%未満	56%	52%	65%	1	朝排便の数は中間評価時に比べ下がってしまっている。朝はまだ難しいが、1日に1回排便するという面で見れば1月は75%、2月は2%であり、成果は上がっている。	3		まだ習慣化できていない児童に対して、朝排便をする「コツ」を指導する。	
信頼される学校	(1) 地域、保護者へ学校情報を公開に努める。 (2) 特色ある教育の推進を図る。	学校や学級の経営方針を伝える。 地域の教育力を活用した「ふるさと学習」の推進地域(自然・文化・歴史・人材)を生かした「ふるさと学習」	教務	学校便りや学級通信、ホームページを通して学校の様子が分かること 回答した保護者の割合	100%	100%	90%	80%	80%未満	97%	98%	98%	3	分かること割合はほぼ同じであるが、4階層のうち、4の「そう思う」の評価が58%から68%に上がっている。保護者への充実に向けての通信などで評価していたと考えている。	3		引き続き、学校での生活の様子だけでなく、学習のつまみきポイントや効果的な家庭学習など保護者に分かりやすい通信の作成に努める。		
				「今、住んでいる地域が好きだ」と考える児童の割合	100%	100%	95%	90%	90%未満	98%	91%	91%	3	道徳科目「教科書や生活科」等での学習などを通してふるさと学習を行っている。また今年度は期別の年というところで、ふるさと大見を意識した学習発表会を行った。これらの成果が現れていると見える。	3		引き続きふるさと学習を行う。開校に向けて地域の方とのふれあいを大切にしたり、大見小学校に感謝したりする活動を仕組む。		

【自己評価 評価】 上記評価基準表
4:(目標達成) 3:(ほぼ達成) 2:(もう少し) 1:(できていない)

【学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。 ハ:分からない。